

# 紀の川用水水路予定地内遺跡分布調査

1969・3



和歌山県教育委員会

## 序

和歌山県北部を東西に流れる紀の川は、その両側に河岸段丘ならびに沖積平野を形成していますが、この水を利用するには種々の自然条件により制約を受けています。

このため、農林省では、紀の川用水幹線水路を建設することになり、昭和39年より8ヶ年計画で実施されていますが、昭和39年橋本市隅田において弥生式時代の血縄遺跡が工事により一部破壊されたことから、本水路予定地に、数多くの遺跡が所在するのではないかと考えられ、県教育委員会では文化庁と協議し、昭和44年度国庫補助事業として今後の予定ルート約27kmについて、遺跡所在確認調査を実施することになりました。

そこで、和歌山県文化財研究会内に「紀の川用水幹線水路事業予定地遺跡分布調査団」を置き、調査員に平安高等学校教諭田辺昭三氏をお願いし、京都大学、京都女子大学、立命館大学、龍谷大学の大学院ならびに学部の学生諸氏の協力をえ、昭和44年3月9日より3月18日にかけて現地調査を行ないましたが、無事完了し、ここにその結果を報告いたします。

今回明らかにされた遺跡は、紀の川用水関係のみならず、今後の各種の開発事業に対する保護資料として活用いただきたく、その一助となれば幸甚と存じます。

最後に、調査にあられた方々、調査にご協力をいただいた地元の方々ならびに心よく資料を提供いただいた近畿農政局紀の川用水幹線水路事業事務所に対し厚く謝意を表します。

昭和44年3月31日

和歌山県教育委員会

教育長 荒 木 修 三

# 調 査 の 概 要

## 調 査 範 囲

紀ノ川用水は、現在ほとんど耕地化されている紀ノ川北岸の河岸段丘面を東から西へむかって貫ぬく灌漑用水路である。今回の遺跡分布調査は、この紀ノ川用水開鑿予定地を、幅100mの範囲にわたって実施した。われわれが踏査を行なった時点では、すでに橋本市西郊まで工事が進展していたため、実質的に調査したのは、橋本市市脇から那賀郡打田町東三谷の間である。工事計画図によれば、水路は現地形の起伏に応じて開渠、暗渠、トンネルなどの工法をとることになっているため、われわれは、工事の際に埋蔵遺跡を破壊する危険のある開渠および暗渠の個所を踏査の対象とした。

## 調 査 方 法

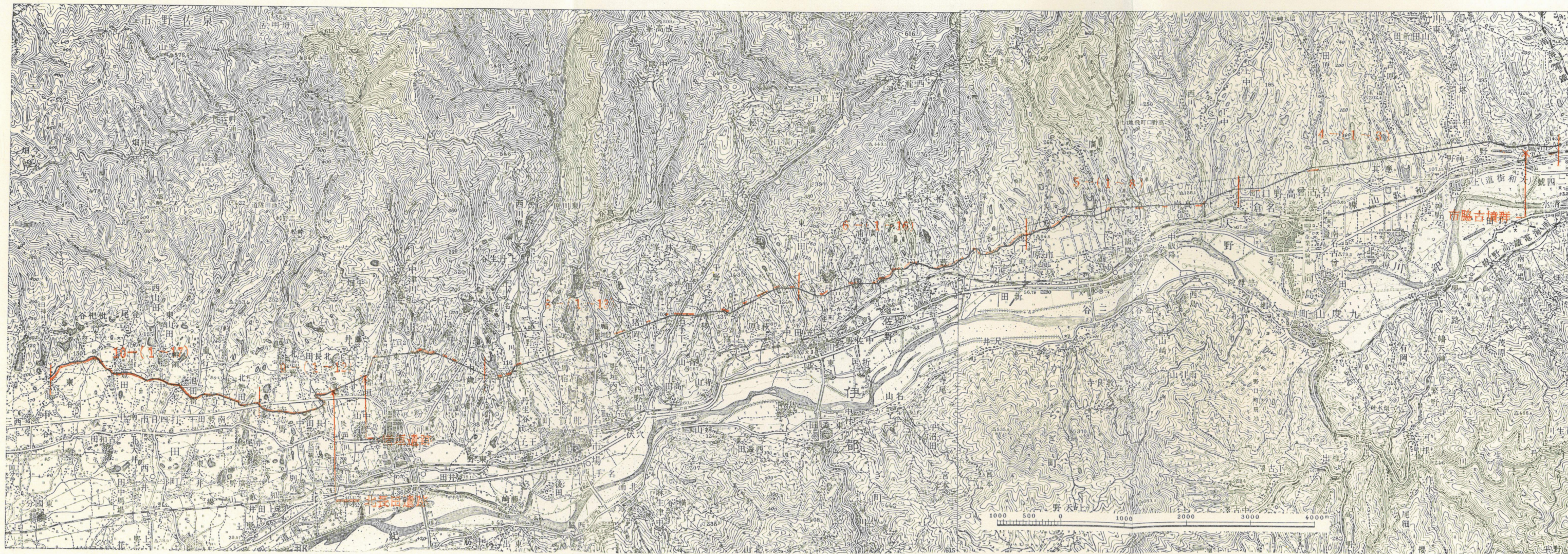
分布調査にあたって使用した地図は『紀ノ川下流右岸 $\frac{1}{5,000}$ 平面図(4-10)』（京都農地事務局・1963）である。調査の便宜上、調査地全域を小区分して60の地区にわけた。各地区の名称は、たとえば「9-8」のごとく、前記 $\frac{1}{5,000}$ 地図の番号と、各地図の西から順につけた数字番号との組合せによって表示することにした。調査地の西端は「10-1」であり、東端は「4-3」となる。各地図間の境界は附図に示した通りである。なお、一地区の広さは、幅100m、延長約200m~300mの範囲とし、隣接地区相互間の境界は、地形の条件や遺物の分布密度などを考慮して任意に定めた。しかし、調査予定地の範囲をこえて遺物の分布が拡大している場合は、調査範囲を適宜ひろげることとした。

## 調査結果の概観

那賀郡粉河町東毛を境として、調査地域を東西に二分すると、西部では用水路が海拔80m~100mの紀ノ川段丘面を開渠ではしる。一方、東部はしだいに東へ標高があがり、用水路はトンネルの個所が多くなる。東部で開渠または暗渠になるところは、和泉山地から紀ノ川へ注ぐ小河川が、段丘をけがらずつて南北の方向につくる小さな谷を横断する個所だけである。したがって、遺物分布は西部が圧倒的に濃密であり、断続的な東部の踏査地では極めて稀薄である。

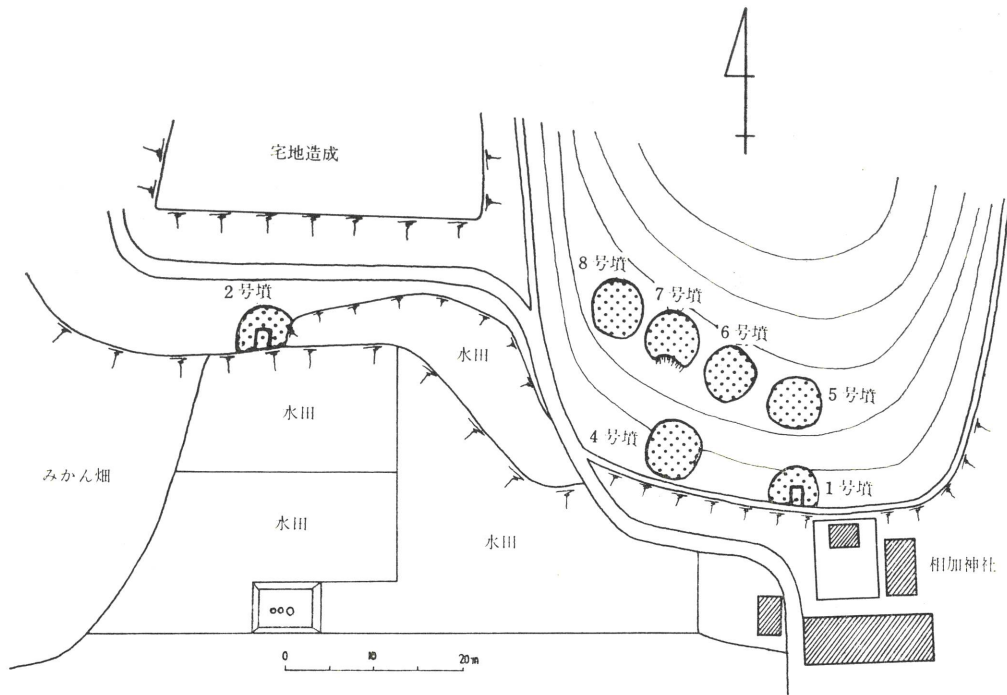
遺物分布の濃密な西部調査地についてもつとも注目すべきことは、延長約6kmのこの範囲から、32個の石鏃を発見したことである。発見地点別にみると、10-1（打田町東三谷）から9-1（粉河町南志野）間で9個、6-2から9-8（粉河町猪垣）にいたる約1.4kmの範囲に23個の石鏃が集中している。石鏃は、その大部分が縄文時代に属するものと思われるが、石鏃と共にサヌカイト、チャート剥片を多数発見していることとも考えあわせて、石鏃の集中分布する範囲に縄文時代の生活址が存在するとみて、まちがいないだろう。

なお、須恵器、土師器の小片は遺物分布表の示すように、ほぼ調査地全域にわたって散布しているが、その大半は7世紀以後の時期に属するものである。しかし、9-1および9-2（粉河町南志野）



第 1 図

紀ノ川用水遺跡分布調査地区区分図



第 9 図 市 脇 古 墳 群 略 図

では、5～6世紀に属する須恵器片が集中している。ここは遺物分布も濃密であり、再検討の必要があろう。

#### ○猪 垣 遺 跡

今回の分布調査によつて新たに発見した遺跡で、粉河町猪垣の誓渡寺附近一帯にあたる。遺跡は標高85mの段丘上に存在し、東方は中津川とよぶ小さな川がつくつた崖によつて限定できるが、全体のひろがりには未確認である。この遺跡では、誓渡寺の東に隣接した10aあまりの水田一枚から、石鏃4個、サヌカイト剥片214個などがみつかった。石鏃の形態から推して、このあたりに縄文時代の生活址が存在したことはほぼまちがいないだろう。

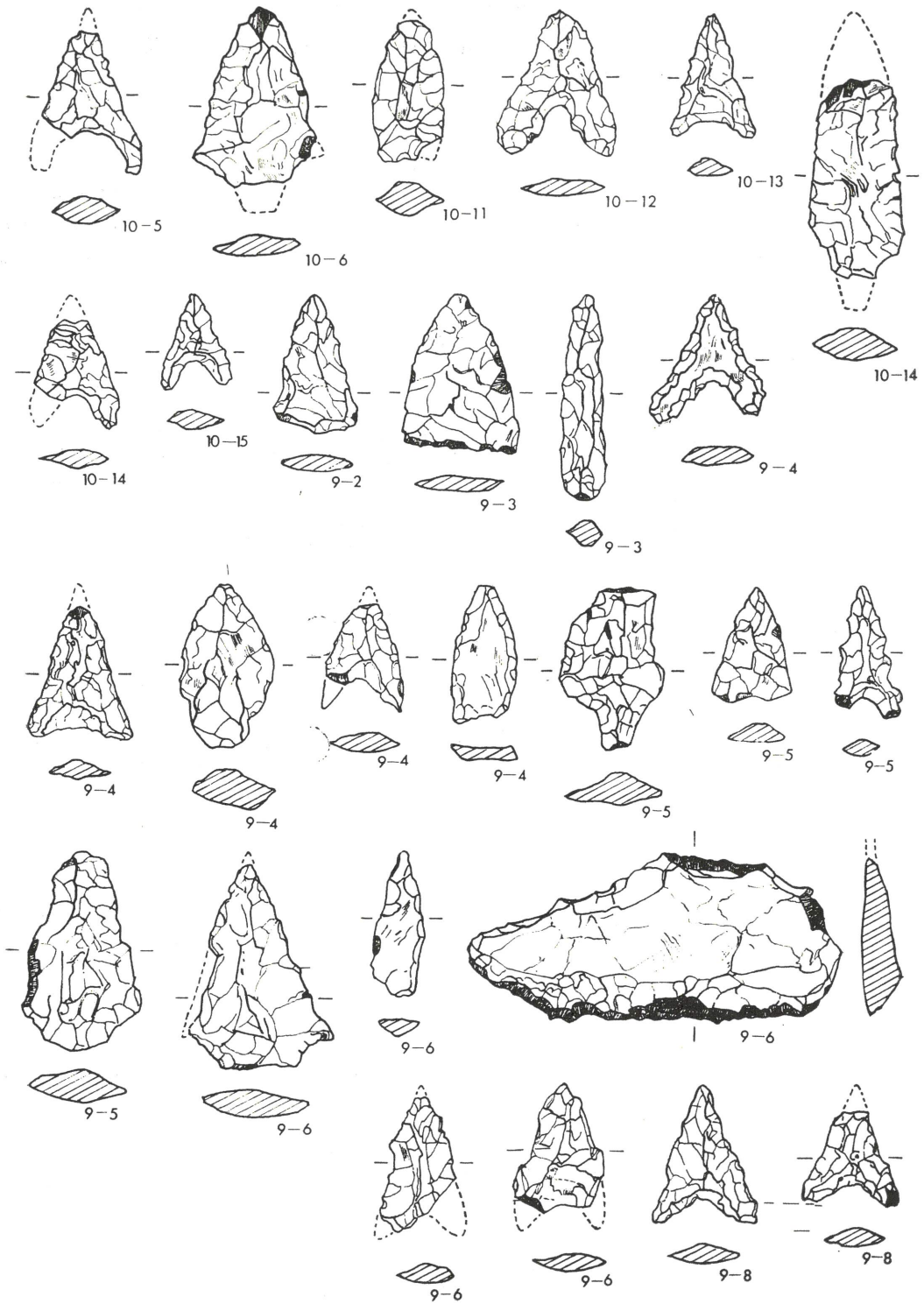
#### ○北 長 田 遺 跡

この遺跡も今回の調査によつて新たに発見。その位置は猪垣遺跡の西南方約500mのところである。遺跡は猪垣遺跡と同一段丘面にあるが、東西共に浅い谷で限られている。したがつて、この遺跡の、東西へのひろがりには、最大250mの範囲である。南北へのひろがりには未確認。この遺跡では、踏査できた約30aの水田中から、石鏃5個、石匕1個、サヌカイト剥片89個が集中的にみつかった。こども猪垣遺跡と同様に縄文時代の生活址と推定した。

なお、北長田遺跡に隣接した6-4、9-3、6-2などでも無視できない量の遺物が散布しているので、視点をしばつて、この地一帯の再調査を実施する必要がある。

○市 脇 古 墳 群

橋本市市脇の相加神社裏山に所在する群集墳で、横穴式石室の開口している三基については、すでに古くから知られていた。この古墳群の所在地が、今回調査予定地内にあるため、あらためて踏査したところ、あらたに円墳五基を発見した。ただし、この地も造成工事が進んでおり、既発見古墳（3号墳）一基は消滅していた。したがって現存するのは合計七基である。簡単な略測図を掲げて古墳の位置を示しておいたので、第2図を参照されたい。



第 3 圖

石鏃、石匙、石錐實測圖(実大)

紀ノ川用水水路予定地内遺物分布表

	器				瓦	石器		剥片		遺物の観察	備考
	須恵	土師	瓦器	他		鉄	他	サ	チ		
5-4		4									玉ねぎ畑・土堤
5		2	1								みかん畑
6-1								1			みかん畑・休耕田
2		1	3					1			" . " . 池
3				1							" . 山林 . 池
4			1	2							" . 麦畑
5		8	1	2				1		<須>杯蓋(6c) 1, 宝珠A・B各1,	"
6		1			3					<須>カメ(8~9c) 1, <瓦>縄蓆 叩目文(8c?) 1,	"
7		1		3				1			"
8		2			2					<須>カメ(5c) 1, <瓦>縄蓆叩目 文(8c?) 1,	道路
9											みかん畑・休耕田
10		4	2	1	弥1	1				<須>カメ(6~8c) 2, <弥>底部(前 一中期) 1, <瓦>(中・近世) 1,	" . 柿畑・山林
11		1	3	4						<土>碗1,	"
12		1									"
13			1					3			"
14								1			" . 柿畑・山林
15		3	12	5	弥1			3		<須>カメ(9c) 1.	" . " . " . 水田
16		1	4	1				2	1	<土>カメ1,	" . " . 畑
8-1											みかん畑・休耕田
2		35	35	1				2	2	<須>高台(7c)宝珠B1, カメ(9c)1,	" . 水田
3		1	14					2	5		" . "
4								1	1		" . 玉ねぎ畑
5		3	4					1	4		" . "
6			1						2		" . 豆畑・休耕田
7											山林・休耕田
8		2	1					1			みかん畑・玉ねぎ畑・豆畑
9											山林・柿畑・休耕田・池
10		1								<須>宝珠B(8c) 1,	みかん畑・柿畑
11											" . "
12											" . 休耕田・池
13		1									みかん畑・休耕田
9-1	157	43	2					23	16	<須>杯身(5c) 1, 同(6c) 1, 宝珠A 1, カメ(5~8c) 7,	玉ねぎ畑・休耕田・みかん 畑・宅地
2	49	13	1		2			53	2	<須>杯身(6c) 1, 杯蓋(5c) 1, 同(6 c) 2, 躰(5c) 3, カメ(6c) 2	玉ねぎ畑・休耕田・みかん
3	3	11	1	土 錘 1	1	1※	3	3	3	※石錘	" . みかん畑



	土 器				瓦	石 器		剥 片		遺 物 の 観 察	備 考
	須 恵	土 師	瓦 器	他		鎌	他	サ	チ		
4	14	23	1			6	9	11		<須>杯身(6℃)1,	玉ねぎ畑・みかん畑
5	9	23	2	弥?		5	89	6		<須>宝珠B1, カメ(5℃)1,	" . "
6	20	18	2			5	1※80	24		<須>高台1, ※石堰1,	" . 豆畑
7	1	5	2					3	3		みかん畑・玉ねぎ畑・休耕田
8	7	3				4		214	12		玉ねぎ畑・豆畑
9											みかん畑
10									5		" . 休耕田
11											休耕田
12											"
10-1	4	63									玉ねぎ畑・休耕田・宅地
2	7	59	1			1	2	4		<須>宝珠B1, 椀1, カメ(5℃)1,	玉ねぎ畑
3		6	1				2	3			みかん畑
4		14						1			畑
5	7	75	2		3		3	3		<須>宝珠A1, <瓦>(中、近世?)3,	玉ねぎ畑
6	25	119	4		1		4	2		<須>高台1, 杯蓋(5℃)1, カメ (7~8℃)1,	"
7	37	91	4				2			<須>カメ(9℃)1,	"
8	115	97					9	4		<須>杯身(5℃)2, 同(6℃)8, 杯蓋 (5℃)1, 無蓋高杯(5℃)1, カメ (5℃)7,	"
9											みかん畑・山林
10	5	20					2	1			玉ねぎ畑・みかん畑
11	7	27				2	4	3		<須>高杯(6・7℃)1,	玉ねぎ畑
12	20	37				1	10	6		<須>宝珠B2, 壺(7-8)1,	" . みかん畑
13	1	11				1	2	6			玉ねぎ畑・みかん畑・宅地
14	4	67				2	12	7		<須>カメ(9℃)1,	玉ねぎ畑
15	5	46				1	1	4			"
16											" . 休耕田
17	4	9	1		1		5	2		<須>カメ(9℃)1,	" . " . 畑・みかん畑

○遺物分布表中で使用した略語は、以下の通りである。

サ = サヌカイト	高 台 = 高台付杯身
チ = チヤート	宝珠A = 宝珠つまみをもち内面にかえりのある杯蓋
<須> = 須 恵 器	宝珠B = 同 内面にかえりのない杯蓋
<土> = 土 師 器	
<弥> = 弥 生 式 土 器	
<縄> = 縄 文 式 土 器	
カメ = 甕 形 土 器	

○遺物の欄に示した数字は採集した総個数をあらわす。土器はすべて細片で実測不可能のものばかりである。